

# 第九回東方学術賞

拝啓 晩秋の候 貴台におかれましては御清祥のことと御慶び申し上げます  
さて 財団法人 東方研究会 におきましては 本年度もインド大使館と共  
同主催にて 学術及び文化活動の秀れた業績を世に広く顕彰することに致し  
ました

先般来 選考委員会において慎重審議の結果 第九回東方学術賞受賞者は

学術賞として

我妻和男殿 (麗澤大学教授)

アーネスト・シュタインケルナー殿 (ウィーン大学教授)  
(Prof. Dr. Ernest Steinkelner)

の業績を讃えることに決定しましたので 左記の如く 顕彰式を行ないます

一、場所 インド大使館

東京都千代田区九段南二丁目二ノ十一(千鳥ヶ淵)

一、日時 平成五年十一月十八日(木曜日)午後三時

つきましては 御多用中恐縮ながら御来駕の榮にあずかりたく ここに御案  
内申し上げます 敬具

平成五年十一月 吉辰

財団法人 東方研究会

理事長 中 村 元

各位

追伸 式典終了後はリフレッシュメントでおくろぎ下さいとの伝言が大使館から  
ありました 出席の御連絡は東方研究会へ十一月十五日(月)までに御知らせ  
頂ければ幸甚に存じます(電話〇三三二五一一四〇八)御来駕の際には御  
手数ながら受付に本書状封筒を御示し下さいますようお願い申し上げます



भारत का राजदूतावास, ट्यो  
Embassy of India,  
2-11, Kudan-Minami 2-chome,  
Chiyoda-ku, TOKYO 102  
Telex: 2324886INDEMB J  
Phone: 03 (262) 2391  
Fax: 03 (234) 4866

EMBASSY OF INDIA  
AND  
THE EASTERN INSTITUTE, INC.

cordially invite you

to the Award Presentation Ceremony of  
the Eastern Study Prize for 1993

to

Prof. Ernst Steinkellner  
University of Vienna  
(Academic Achievement Award)

Prof. Kazuo Azuma  
Reitaku University  
(Academic Achievement Award)

for their outstanding scholarly achievement  
on Thursday, November 18, 1993  
at 3.00 p.m.  
at the  
Chancery of the Embassy of India  
(2-1, Kudan Minami 2-chome, Tokyo)

R.S.V.P  
The Eastern Institute, Inc.  
Tel 03 - 3251 - 4081

## 中村理事長挨拶

主催者を代表しまして、一言御挨拶申し上げます。

このたびインド大使館の御協力を得まして、共同でここに第八回東方学術賞の贈呈式を開くことができますことは、われわれの最も光栄とするところであります。本日は、朝野各方面から御多忙を御繰り合わせ、わざわざこの会場まで御来駕御臨席賜りましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

財団法人東方研究会は「東洋思想の研究及びその成果の普及」ということを目的としている研究会でありまして、昭和四十五年（1970）十一月十二日付けをもって財団法人の設立許可を受けましたが、すでに二十三周年に相当致します。その間、諸般の活動を続けて参りました。まことに微々たる団体ではありますが全国にわたる各方面の同志、篤志家の御協力によりまして次第に発展して参りました。

そしてさらに斯学の発展を計るために真に学問的意義があり、世の人々を益する恒久的な事業を遂行したいとかねがね念願しておりましたが、その一環としてインド大使館と共同主催にて『東方学術賞』を設けて、学者のすぐれた業績を世にひろく顕彰することに努めて参りました。そして本年度もインド大使館と共同主催にて、学者の優れた業績を世にひろく顕彰することに致しました。

それにつぎましては、インド大使館のプラカーシ・シヤール (His Excellency Ambassador Prakash Shah) 大使をはじめ、館員の方々の心からなる御協賛を得まして、順調に進めることができました。よって先般来諸方面より多数の識者のご意見を徴し、さらに選考委員会を設けて慎重に審議を続けて参りました。選考委員は、奥田清明殿、川崎信定殿、勝又俊教殿、玉城康四郎殿、奈良康明殿、前田専学殿、水野弘元殿、山口恵照殿、山口瑞鳳殿と小生と計十人に御依頼申し上げます。その結果次の方々の業績をたたえることに致し、本日このように顕彰式を開催することになりました。

これより第九回東方学術賞の受賞者の方々のお一人お一人の功績の顕彰に移ります。

本年度も、昨年度の場合に引続き、外国人学者に東方学術賞を贈呈することになりました。本年、「東方学術賞」(「Academic Achievement Award」)を受賞されますのは、オーストリア共和国・ウィーン大学教授エルンスト・シュタインケルナー教授でございます。シュタインケルナー教授は、一九三七年にオーストリア共和国のグラーツでお生まれになりました。五五年にギムナジウム(中等学校)の課程を終えられた後、五五年から五七年までグラーツ大学で独文学と英文学を修められ、その後五七年にウィーン大学に移籍し、フラウワルナー教授の下でインド哲学を専攻され、六一年よりフラウワルナー教授の研究助手を務めるかたわら、六三年には博士号を取得されました。学位取得の後ウィーン大学のインド学研究所の助手に就任、翌六四年から同研究所の講師も兼任され、六七年には教授資格(Habilitation)を取得され、七一年までウィーン大学インド学研究所で研究・教育の任に当たられました。七一年にアメリカ・フィラデルフィアのペンシルヴァニア大学インド学講座の客員講師に招聘され、翌年には同大学のインド哲学の助教授に就任されましたが、七三年ウィーン大学のチベット学・仏教学研究所を創設され、以来その所長として研究・教育の両面にわたり同研究所の発展に尽力されてこられました。博士は一九八八年、オーストリア学士院の正会員に選出されております。

シュタインケルナー博士の卓抜な業績は、お配りいたしました「主要著作目録」から明らかでございますが、博士の研究の核心を形成しておりますのは、インド仏教に於ける認識論・論理学の伝統の研究でございます。「主要著作目録」の「MONOGRAPHS」の②にございますご研究は、博士の教授資格取得論文でございますが、博士はそこで師のフラウワルナー教授の開拓された仏教認識論・論理学の研究、なかんづくダルマキールティの研究を本格的に継承され、後期ダルマキールティの論理学上の重要な著作である *Hetubindu* のテキスト校訂・独訳、並びに詳細な訳注を発表されました。その後博士は、やはり後期ダルマキールティの体系的著作として重要な *Pranaviniścaya* の論理学を扱った章の校訂・独訳並びに訳注の研究も手がけられ、それが「主要著作目録」の「MONOGRAPHS」の③のご研究として結実いたしました。これらのご業績は、チベット訳でのみ現代に伝えられているインド仏教の難解な哲学書を研究する方法論を確立した規範的研究として高く評価されております。

このような基礎研究に基づき、博士はダルマキールティ哲学の主要学説・重要概念の考察に進まれ、刹那滅論証や本質

(svabhava) の問題に関して、「主要著作目録」の [RESEARCH PAPERS] の①②③にございますような優れた論文を発表されております。

また博士は仏教認識論・論理学の純粋に論理的な側面ばかりでなく、近年は特にその宗教哲学的基盤に大きな関心を払っておられます。仏智の問題や仏陀論、更に輪廻の論争の問題などについて、「主要著作目録」の [RESEARCH PAPERS] の④⑤⑥及び [MONOGRAPHS] の⑦にございますような業績も公表されております。

更に博士には、チベット仏教に於ける認識論・論理学の伝統に関するご研究も多く、この分野でも世界の学会で指導的立場にいらっしゃいます。「主要著作目録」の [MONOGRAPHS] の⑧等のご研究は博士のこの分野での代表的な業績と申せましょう。

以上のようなシュタインケルナー博士のインド仏教・チベット学におけるご業績を評価して、財団法人東方研究会は「東方学術賞」をお贈りしたいと存じます。

諸般の事情で、シュタインケルナー博士はあいにく本日の顕彰式にはご参加頂けませんでしたが、オーストリア国全権大使、エリッヒ・M・シュミット閣下が、シュタインケルナー博士の代理として賞を受けて下さいます。ここに、ご紹介申し上げます。

この度「東方学術賞」を受けられます吾妻和男教授（麗澤大学教授・筑波大学名誉教授）は、東京大学大学院において印度哲学及びドイツ語ドイツ文学を修めた後、一九六三年から横浜国立大学（八年間）、早稲田大学（二年間）、筑波大学（十七年間）を歴任後、麗澤大学教授として勤務されています。その間ベンガル文化、近代インド思想、比較文化についての講義及び学生の指導に当たられ、また、ドイツ語、ベンガル語、ヒンディー語、サンスクリット語等を教授されました。又、タゴール国際大学 Visva-Bharati で、日本語、日本文化を教授されました。

吾妻教授の業績を分類すると、

(一) 近代ベンガル思想、文化、言語

(a) 特にタゴール研究では、タゴールの思想、文学、絵画、教育に関して研究論文発表に著しい業績がございます。例え

ば『ギタンジヨリの韻律』七編は、タゴールが次々に試みた新ベンガル韻律法に即応して論功者自身の開発した韻律譜表記を使って、詩集『ギタンジヨリ』を詳細に分析し、詩集のベンガル韻律史上の位置付け及び韻律美学上の芸術性を考察したもので、全篇の半分まで進み、国際的にも初めての試みであります。

タゴールのベンガル語著作の本邦初訳も手掛けられ、長編小説『ゴーラ』（邦訳、四八六頁）、中・短編小説、戯曲、詩集、手紙、論文、数十点上ります。タゴール著作集十二巻（第三文明社）の完成に編集委員として尽力されました。

(b) タゴール以外のベンガル言語、文化では、『ベンガル言語文化史的観点からみたラムモホン・ライのベンガル語文法』がごさいます。ベンガル人によるベンガル語文法は十世紀初頭のラムモホン・ライのもですが、本論文は、先行のポルトガル語及び英語のベンガル語文法を写真文字、音韻、形態、文体などを言語文化史的に詳細に検討して、ラムモホン文法の歴史的位位置付け及び意義を考察されたものであります。

#### (二) ベンガル関係以外の論文

ベンガル関係以外の論文としては、マハートマー・ガンデー、アームベドカルなどについて、ヒンディー語、英語文献から論考したものがごさいます。

#### (三) 文化交流、文化比較研究

(a) 主として『タゴールを中心とした近代日印文化交流史』をベンガル語で執筆中で、既に数点カルカッタで出版されています。タゴールの五回の訪日、岡倉天心をはじめ日本美術院の画家たち、河口慧海など仏教学者、殊にタゴール生存中多数の日本人学生・教授のシャンティニケトン留学・教授等に関してのタゴールとの関係のベンガル語、英語、日本語の文献数千点を蒐集、編年的に研究した成果であります。

(b) 独印文化交流、特にタゴールとドイツの関係を独語、ベンガル語の文献から考究されています。

#### (四) インドへの日本文化紹介

川端康成の小説『虹』のベンガル語訳などがごさいます。

又、我妻和男氏は二十数年来タゴール国際大学に日印学術文化交流センターとしての日本学院設立の運動をなさつていら

しやいましたが、当大学の要請により四年前に日本学院設立委員会（委員長平等通照、委員中村元、新井慧等諸氏）を結成、同大学日本人関係者、タゴール愛好者の協力を得て遂に長年の夢が実現、来年二月に落成式開催予定でございます。我妻氏は委員会設立等に奔走、以後当大学と緊密な連絡を取り、十回に亙り折衝のため渡印、尽力されました。

よって、同氏の学問的功績を高く評価し、財団法人東方研究会は「東方学術賞」をお贈り致します。

以上の次第でありますので、諸方面の御賛同をお願い申し上げます。

なお副賞として加えるために、インド大使館からいろいろな記念品が寄贈されました。また、株式会社名著普及会から Hultzsch 編著 *Inscriptions of Asoka (New Edition)* が、東京書籍株式会社からは、中村元著『比較思想の軌跡』と阿部慈園／文・石川響／画による『インド四季暦』（二巻）が、株式会社春秋社からは中村元著『原始仏教の社会倫理』が贈呈されました。

開催につきましては、インド大使館の方々の特別な御協賛にあずかりましたことを深く感謝しております。そのお力によりまして微力な我々の志願がこのように見事に実ったのであります。おかげさまで諸方面より祝電・御祝いなどを頂きましてありがたく存じます。

式のあとのパーティーは、インド大使館の御好意によるものであります。また、報道関係はじめ諸方面の方々に御協力頂きましたことを大いに感謝致しております。そして御集まりの皆様から厚く御礼申し上げます。

ただ何分にも、我々が微力で手不足でありますために、何かと不行届きの点が多々ありましたことは、まことに申し訳なく存じますが、この点は平に御寛恕の程お願い申し上げます。そして、将来にわたって一段と活動を発展させたいと存じておりますので、今後ともよろしく御指導御後援の程願ひ上げます。

以上、甚だ蕪辞を連ねましたが、これを以て御挨拶のことばとさせて頂きます。

## 東方学術賞

我妻和男 (麗澤大学教授、筑波大学名誉教授)

昭和六年八月十四日に、父哲夫、母マサの長男として東京に生まれる。1953年より1960年まで、東京大学で、中村元教授、手塚富雄教授をはじめ、諸教授のもとで、インド哲学及びドイツ文学を学ぶ。同大学にて、文学修士(インド哲学及び独語・独文学)号を取得する。1963年から1971年まで講師及び助教授として横浜国立大学に、1972年から1974年まで助教授として早稲田大学に、1974年から1991年まで、助教授、教授として筑波大学に、また1991年から現在まで教授として麗澤大学に勤務し、ベンガル文化、インド思想、比較文化、ドイツ語、ヒンディー語、ベンガル語、マイティリー語、サンスクリット語を教授。

その間1967年から1971年まで、インドの国立タゴール国際大学(Visva-Bhasati)日本学科に勤務する。1981年から1984年まで、筑波大学現代語・現代文化学系学系長を勤める。1991年、筑波大学名誉教授となる。

1986年、ロビンドロ・パロテイ大学より、Doctor of Literature (Honoris Causa)の称号を取得、1989年、Iagore Research Instituteより 'Rabindratattwa Acarj'a'の称号を受ける。

日印文化交流及びインド学研究のため、三十回近く訪印する。また、その間タゴール国際大学日本学院設立に尽力する。



## ACADEMIC ACHIEVEMENT AWARD

PROF. DR. ERNST STEINKELLNER (UNIVERSITY OF VIENNA)

Professor Ernst Steinkellner is a pupil of the late Prof. Frauwallner, made his Ph.D. on the Naiyāika Śaṅkarasvāmin under his guidance, and started his scholarly career in 1961 as Prof. Frauwallner's research assistant. He made his habilitation at the University of Vienna with the edition and translation of Dharmakīrti's Hetubindu, and remained in Vienna as University assistant and lecturer until 1971 when he moved to the University of Pennsylvania, Philadelphia, where he became Associate Professor of Indian Philosophy in 1972.

In 1973, he returned to the University of Vienna to take the newly established chair for Buddhist and Tibetan Studies, and founded the Department of Tibetan and Buddhist studies in the same year. He was a Visiting Professor to the Universities of Kyoto (1982) and Oxford (1992). In 1977 he established the monograph series "Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde", and is editor and editorial consultant of several renowned scholarly journals and enterprises. In 1988 he became Full Member of the Austrian Academy of Sciences.

After his dissertation on a Nyāya theme, Prof. Steinkellner's scholarly interest moved towards the traditions of Buddhist Philosophy. The Buddhist tradition of epistemology and logic was a major focus of his work since the middle of the sixties, and he devoted a considerable number of philological, historical and systematical books and articles to this tradition.

Beyond this main line of his research, he published a new German translation of Bodhicaryāvatāra, studies and texts related to the Buddhist arguments for rebirth, on the early history of the Tibetan interpretation of the Buddhist heritage, on early Buddhist ānatmavāda, and is recently interested in the early period of transmission of the Buddhist canon (Kanjur) in Tibet.

In 1991, he led a joint expedition with members from the IsMEO, Rome, and the department in Vienna to the monastery in Tabo, Spiti, where he initiated the reconstruction of its manuscripts. Presently he is working on an edition and analysis of the Gaṇḍavyūhasūtra inscription in the 'Du Kañ of Tabo.

His main scholarly aims are the improvement of the philological material available for the study of Buddhist philosophical and spiritual traditions, context-oriented interpretations of Buddhist ideas and their development, and the attempt at appreciating the original contributions of Tibetan philosophers and scholars to the Buddhist tradition.

## Biographical Data of Prof. Ernst Steinkellner

Born October 3, 1937 at Graz

### Education

- 1955 Matura at Akademisches Gymnasium, Graz
- 1955-1957 University of Graz (German and English Literature)
- 1957-1963 University of Vienna (Indology)
- 1963 Ph.D. in Indology, University of Vienna
- 1967 Habilitation for Indology, University of Vienna

### Academic Activities:

- 1961-1963 Research Assistant, Department of Indology, University of Vienna
- 1963-1972 University Assistant, Department of Indology, University of Vienna
- 1964-1971 Lecturer, Department of Indology, University of Vienna
- 1971-1972 Visiting Lecturer in Indic Studies, University of Pennsylvania, Philadelphia
- 1972-1973 Associate Professor of Indian Philosophy, University of Pennsylvania
- 1973- Full Professor of Buddhist and Tibetan Studies, University of Vienna
- 1982 Distinguished Visiting Professor, University of Kyoto
- 1992 Visiting Professor, Balliol College, University of Oxford

### Related Activities

- 1961-71 Managing editor, "Wiener Zeitschrift für die Kunde Sudasiens"
- 1977- Editor, "Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde"
- 1982- Editor, Journal of the International Association of Buddhist Studies
- 1982- Editorial Consultant, The Journal of the Tibet Society, Bloomington
- 1989- Chairman, Publication Committee, Austrian Academy of Sciences
- 1990- Member, Accompanying Committee "Katalogisierung der orientalischen Handschriften in Deutschland"
- 1991- Editorial Consultant, Revista de Estudios Budistas, Buenos Aires
- 1993- Editorial Consultant, Archiv orientální, Prague
- 1993- Editorial Consultant, Buddhist Tradition Series, Delhi

### Congresses

- 1981 President, Csoma de Körös-Symposium, Vel-Vienna
- 1989 President, 2nd International Dharmakīrti Conference, Vienna
- 1990 Vice-president, VIIIth World Sanskrit Conference, Vienna

### Honours

- 1967 Kardinal Innitzer-Award
- 1973 M.A.h.c. University of Pennsylvania
- 1978 Corresponding Member, Austrian Academy of Sciences
- 1981 Cosma de Koros-medal
- 1985 Member of the Commission for Buddhist Studies, Academy of Sciences at  
Göttingen
- 1988 Full Member, Austrian Academy of Sciences
- 1989 Corresponding Member, Istituto Italiano per il Medio ed Estremo  
Oriente